



「陰口(心ない発言)」

先日、ある介護職員から相談をいただいた。

「(仕事をしながら)虚しい」、「(仕事に)行き詰まればかりいる」、「(仕事に)関心が持てないでいる」

虚しいとは、「陰口が横行する空しい職場」であるということなのか。

「行き詰まればかりいる」とは、「陰口に息詰まる職場」であるということなのか。

「関心が持てないでいる」とは、

「人の振り見て
我が振り直せ」

転期に立つ経営の視座④

我が振り直せ

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。「継業と人材創造塾」主宰。「介護ビジョン」編集委員。介護福祉教育マスター。著書に「99の言葉の杖」(日本医療企画)、「早川浩士の常在学場」(筒井書房)、「介護人材創造塾」(筒井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)など。

HP: <http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

などの言葉を繰り返すだけで、どのようなアドバイスを求めたいのか、はじめのうちはその真意を測りかねていた。

話を聞いていくうちに、彼への陰口(心ない発言)が職場内で常態化していることがわかった。しかも、休みの日に限って。

「陰口のほかに関心がない職場」であるということなのか。

「自分以外のことには関心がない」という人もいるが、自分以外の他人に関心が持てずに悩んでいる人もいます。喜んで嬉しいと思える欲心を持つのもよいが、「上司の欲心を買う」ために媚びる人、

その姿を見て「寒心に堪えない」と嫌悪感を抱く人、「そのような行為は感心しない」と非難ばかりする人もいます。こうして多様性(ダイバーシティ)を受け止めながら、「陰口を言う人の心理を」考え、議論する「ための」アクティブ・ラーニング*1を試みてはどうかと助言した。

前で追従する者は
陰で誘る

陰口とは、相手を不快な気持ちにさせる。また、批判や非難などを相手のいないところで口にすることを意味している。面と向かって相手に言わないことから、「前で追従する者は陰で誘る(人の面前で媚び諂う者は、陰にまわると平気で悪口を言うものである)」ということわざがある。

「口は禍の門(不用意な発言は身を滅ぼす要因になるから、言葉は十分に慎むべきだという戒め)」、「物言えは唇寒し秋の風(余計なことを言ったばかりに、自ら災いを招くことのたとえ)」、「噂をすれば影がさす(人の噂をしていると、ちよどそこへ噂の本人が現れることがあるということ)」などを

る由もないからこそ、(自分のことを棚に上げて)相手の陰口を堂々とやってしまうのだろうか。

「石が流れて木の葉が沈む(本来は軽い木の葉が流れ、重い石は沈むものなのに、それが逆になっていくことから、物事が通常の道理とは逆になっていることのとたとえ)」となつては、手がつられない。

これらの故事・ことわざを紐解きながら、陰口(心ない発言)を題材にした学びは職場内の人間関係を改善するためにも必要だ。

とある介護事業所に掲げられていた詩を記す。

- 一つの言葉で泣かされて、
- 一つの言葉で大笑い、
- 一つの言葉で喧嘩して、
- 一つの言葉で仲直り、
- 一つの言葉で気がめいり、
- 一つの言葉で気が晴れる、
- 一つの言葉で愚痴をいい、
- 一つの言葉でありがとう、
- 一つの言葉はそれぞれに、
- 一つの心をもっている。

言葉一つで、一喜一憂するからこそ、一つ一つの言葉を大切に扱わなければならない。

名人は人を誘わず。人こそ人の鏡。人の振り見て我が振り直せ。